

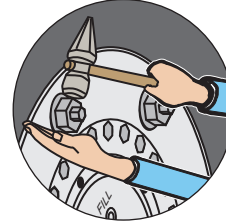
ホイールボルト・ナットの定期点検について

車輪の脱落事故は、人命に係わる重大事故を引き起こし社会的信頼を失うことにもなりかねません。車輪が脱落するまでには必ず予兆があります。日頃から正しい点検・整備の実施をお願い致します。特に大型車においては、自動車点検基準にてホイール・ボルト関係の定期点検が義務化されております。点検の結果、異常が発見された場合は直ちに整備を行ってください。

＜運行前点検＞

- ・ホイールボルト及びナットがすべて付いているか、錆が出ていないか点検します。
- ・ホイールナットからホイールボルトの出っ張り量が揃っているかを点検します。
- ・ホイールに亀裂、変形などの損傷及び取付状態に異常が無いか点検します。
- ・点検ハンマーにより、ホイールナットが締まる方向に軽くたたき、ナットの緩みやボルトの折損がないか点検します。

(点検ハンマーによる点検)

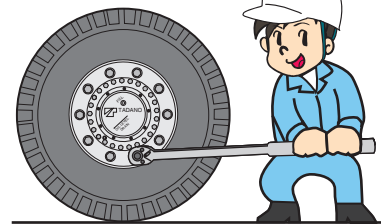


ナットが締まる方向に叩く

＜3ヶ月定期点検＞ 運行前点検に加えて、次の点検を行います。

- ・ホイールナットが規定のトルクで締付けられていることを、トルクレンチなどを使用して点検します。

(トルクレンチによる点検)



締付けは規定トルクで!

＜12ヶ月点検＞

- ・ホイールを取り外して点検を行います。ホイール、ホイールボルト、ホイールナット及び関連部品に異常が無いか点検します。ホイールを取り付ける際には、規定のトルクでホイールナットを締付けます。

【ホイールナット締付トルク及びホイール交換時の注意】

トルクレンチは勢いをつけず、ゆっくり徐々に締付けます。

	オールテレーンクレーン	ラフテレーンクレーン	
適用機種	AR・GA・ATF・AC	右記以外のGRシリーズ	GR-120N-1 GR-250N-1 GR-120N-2 GR-500N-1 GR-160N-1 GR-600N-1 GR-160N-2 TRシリーズ
ホイールナットタイプ	ホイールナット平面座面	ホイールナット平面座面	ホイールナット球面座面
締付トルク	637N・m (65kgf・m)	610~670N・m (62~68kgf・m)	490~590N・m (50~60kgf・m)
ホイールボルト・ホイールナット部へのグリス塗布	グリス塗布禁止	ホイールボルトねじ部とホイールナットねじ部にグリス(注1)を塗布します。(注2)	ホイールボルトねじ部とホイールナットねじ部及び、ナットの球面部にグリス(注1)を塗布します。
ホイール交換又はホイールボルト・ナットを着脱した場合の初期点検	ホイール着脱後は走行による初期なじみによって、ホイールナットの締付け力が低下します。ホイール取付後約50Km~100Km走行後に規定トルクでホイールナットの増締めを行ってください。その後も、指定距離毎にトルク点検が必要ですので詳しくは取扱説明書を参照願います。		
ホイールを取り付ける際の点検と注意	ハブの取付面、ボルトおよびナットのネジ部等を清掃し、錆、ゴミ、塗装等の異物を取り除いてください。ホイールのナット当たり面、ハブ取付面は塗装禁止です。追加塗装した場合は、塗装を取り除いてからホイールを取り付けてください。インパクトレンチを使用する場合は、締め過ぎのないように注意し、トルクレンチを使用して規定トルクで最終の締め付けを行ってください。		

(注1) グリスは、ダフニーエポネックスNo.2相当品又は弊社指定のMEペースト(部品番号: 980-002-00130 TORQUE CONTROL OIL)を使用してください。

※スプレーグリス等の油脂類はトルク係数が安定しない為、使用しないでください。

(注2) ホイールナット平面座面部には油分を禁止します。ホイールナットの締め過ぎや緩みの原因になります。油分が付いたときは、ふき取ってください。

※保守点検に関する詳細はクレーンに付属している取扱説明書及びメンテナンスノートを参照願います。

※これらの点検にて異常が発見された場合には直ちにタダノ指定サービス工場にご相談ください。

メンテナンスのご用命はタダノ指定サービス工場へ



株式会社 タダノ CS企画部作成